

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100501		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム のいち		
所在地	高知県香南市野市町東野1652-1		
自己評価作成日	令和3年6月14日	評価結果 市町村受理日	令和3年9月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同一法人運営のデイサービスセンターやケアハウスが併設されており、緊急時に協力体制がとれる状況にあります。 また、毎月ボランティアの方を招いて、地域の方と利用者との触れ合いを行っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Jigvosvg">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Jigvosvg</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年8月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>敷地内には同一法人の関連施設があり、行事や災害時の協力体制のほか、理学療法士や栄養士の協力が得られている。事業所の1階はデイサービスセンターで、利用者は通所者やボランティアと交流している。また、町内会にも加入しており、地域の防災訓練への職員の参加等により、地域とのつながりを深めている。 事業所内に事故対策委員会を設置し、各ユニットから選出した職員4人が関連施設の理学療法士の協力を得て、利用者の安全と体力低下予防のための方策に取り組んでいる。栄養面では、関連施設の栄養士に相談して献立表を作り、利用者職員と一緒に調理や準備、後片付けなどをして、楽しく食事をしている。 協力医療機関との連携も取れ、重度化対応について研修を重ねて利用者の希望に沿った支援を行い、これまで8件の見取り実績がある。 職員は、チームワークも良く、利用者を尊重し、その人らしく生きることを支援するという理念に沿ったサービスを実践して、利用者寄り添っている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、理念に基づいたサービスの提供が行えるようにしている。	入口の見えやすい場所に理念を掲示し、職員全員で確認し合い、日々のケアに活かしている。新規職員への配慮も怠ることなく、しっかりと話し合っ、理念に沿ったケアを実践している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は、併設のデイサービスセンターやケアハウスの各種行事に参加して交流し、毎月地域のボランティアの来訪も得て交流を図ってきたが、コロナ禍により、他事業所との交流、ボランティアの受け入れも中止している。	地域活動への参加や、ボランティアとの交流はコロナ禍で見合わせている。ボランティアが担っていたレクリエーション活動や折り紙作りは職員が継続し、ボランティア受入再開に備えている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、地域での地域清掃や料理教室などに利用者と一緒に参加していたが、コロナ禍のため中止している。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、サービスの実施状況等の報告や話し合い、参加者からの意見、要望などを受けサービス向上に努めていたが、コロナ禍のため中止している。	運営推進会議は、地域住民の参加を得て開催していたが、コロナ禍で休止の状態にある。利用者の入所状況等は書面で市に報告しているが、運営推進会議メンバーには報告されていない。	コロナ禍による開催休止中でも、運営推進会議メンバーには書面で現状報告をし、今後活かすための意見を出してもらうことを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターには利用者の状況や困難事例など報告し、相談する関係ができています。	市担当者とは、運営推進会議時に情報共有し、必要に応じて相談に乗ってもらってきた。コロナ禍で運営推進会議の開催がない期間にも、文書や電話で緊密に連絡を取り合い、連携を維持している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については事業所内研修の場を設け、拘束をしないケアに努めている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、身体拘束をしないケアの実践に活かしている。	玄関の施錠は夜間のみとし、昼間は開錠している。外出傾向の利用者には、そわそわしたり、落ち着かない様子を把握して、職員の見守りで対応している。職員は身体拘束をしないケアを理解しており、強制的な声かけをしない等、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待防止について内外研修を受講し、虐待防止を理解している。新しく入職してきた職員にも、適宜、研修を行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族には、入所時に権利擁護関係の制度説明をしている。現在、1名の利用者が成年後見制度を活用している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談も含めて、利用者、家族から希望や疑問点を聞いて説明し、理解、納得を得たうえで契約している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中や、家族との面会時等の機会を捉えて意見、要望を聞き、また、意見、要望が出しやすい関係作りを心がけている。年1回の家族会は、コロナ禍のため昨年から開催できていない。	家族とは、電話や医療機関受診時に連絡を取り合っている。家族は季節の変わり目の体調変化を気遣っており、要望を受けて利用者への対応を変えたりしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やスタッフ会の際に、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。また、必要があれば随時職員との話し合いの場を設けており、申し送りに詳細を記載し、その他の職員にも情報が伝わるようにしている。	ユニットリーダーを中心に職員が話し合い、意見を出し合っている。出された意見は職員同士で共有し、課題は管理者や代表者に伝えている。利用者居室の清掃時間帯を職員の提案で変更し、1日の業務の流れがスムーズになった等、運営に活かされている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの努力や勤務状況について把握し、評価を行って、職員に満足してもらえるような就業環境整備に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は定期的開催されている。外部研修も含めて職員参加の機会を設けたり、スタッフ会で研修報告を行っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に事業所が集まる研修会に参加し、スタッフ会で研修報告を行っている。月2回、ユニット会議を開催している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に本人の生活状況や心身の状態などを聞き、本人の思いを受け止め、その思いに沿ってケアしていけるよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階で、それまでの経過や家族の希望、不安、要望などを聞く機会を設け、家族の思いを受け止め、その思いに沿っていけるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている適切なサービスを見極め、他のサービス利用も含めて説明し、対応している。必要に応じて、特別養護老人ホームや介護療養型医療施設などを紹介している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、裁縫、園芸など、本人の得意分野で力を発揮してもらえるよう声掛けを行い、環境整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会時には、利用者の近況報告に加えて家族自身とのコミュニケーションに努め、共に利用者を支えていけるような関係作りを目指している。事業所の行事活動にも参画してもらい、手伝ってもらっている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人への電話の仲介や、住み慣れた自宅周辺に出掛けたりしている。	家族や友人とは、電話や面会、外出することで関係継続が途切れないよう支援している。面会中止期間にも利用者は電話で友人との話を楽しみ、これまでの関係が継続している。自宅周辺をドライブしたりもしている。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、支え合って生活できるよう利用者一人ひとりの個性を理解し、関係性を取り持つ支援をしている。座席の変更も適宜行っている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も声掛けをし、家族からの相談があればすぐに対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や得意分野から話題提供し、本人の意向を把握するように努めている。会話での把握が困難な場合には、日々の行動や表情から思いを汲み取ったり、家族から情報を得るようにしている。	利用者の思いは日々のケア提供時に把握している。季節の変わり目の体調変化など、家族の気づきを聞いたり、診察や面会時に家族から情報を得て、利用者の思いとともに職員間で情報共有し、サービスに活かしている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴やサービス利用の経過等について、家族やケアマネージャー等からの情報把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の生活状況や、心身の状況を職員全員が総合的に把握し、本人の持てる力の発見に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、職員の気付きなどの意見交換しながら、話し合いで介護計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、適宜見直しを行っている。	利用者毎にサービス担当者を決め、その職員を中心に職員全員で話し合い、家族の意見も聞いて、介護計画に反映している。計画の見直しは6ヶ月毎とし、入退院等、利用者の状況に変化があった場合には、その都度見直ししている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて、日々の様子やケアの実践状況と結果、気づきを記録している。記録を基に見直しを行っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。また家族の同意を得て、在宅支援診療所を活用している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	香南市ボランティア制度を活用し、月1回ボランティアに来所してもらっている。また、毎月地域のボランティア施設へ訪問し、交流している。コロナ禍のため、現在は休止している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前までのかかりつけ医や、希望する医療機関への受診に対して情報提供などの支援を行っている。また、協力医療機関の月2回往診や、随時往診もある。。	本人、家族が希望する医療機関を受診している。受診時は家族の同行介助が原則だが、家族の都合がつかないときは職員が同行し、家族からの情報はその都度確認している。協力医療機関からは、月2回の往診がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週1回勤務しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない場合は、職員が電話連絡などで確実な連携を行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には情報提供を行い、面会時等には病院関係者との情報交換に努め、早期退院に向けた環境を整えている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の気持ちを大切にしながら、苦痛がなく穏やかに終末期を過ごしていけるよう、本人、家族、医師、看護師、職員などが方針を共有し、早期から話し合いを行いながら支援している。	重度化、終末期の対応については入所時に本人、家族に説明し、重度化した際には家族との話し合いを早期に行い、主治医とも相談してチームで取り組んでいる。8件の看取り実績があり、職員は経験を重ねてきている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備して取り組んでいるが、今後も実技を繰り返し行い、実践力を身に付けていく必要がある。6月の内部研修では、AED使用方法、心臓マッサージの救命救急法研修会を行った。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災教育訓練及び基礎訓練を年2回、地震、津波避難訓練を年3回、風水害訓練を年1回、併設のデイサービスセンター、ケアハウスと共同で行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿って、利用者の尊厳を守れるような言葉掛けや、対応を心掛けている。	職員は研修を重ねて個人の尊重への理解を深め、言葉かけや対応に配慮して支援している。トイレ誘導時には、周囲にも配慮して耳元での声かけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを表したり、自己決定出来るような言葉掛けや、場面作りに努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを理解し、本人の希望も聞きながら、個別の支援ができるよう努めている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみができるよう職員が見守り、声掛けを行っている。支援が必要な利用者には、一緒に身だしなみを考えている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの得意な事を活かしながら、野菜のカット、皮むきや味付けを職員と一緒にやっている。食後には皿洗いなども行っている。	関連施設の栄養士に相談しながら献立を作り、準備や片付けなど、利用者もできることをして、食後はコーヒーやお茶を飲みながらゆっくり過ごしている。利用者、職員と一緒に材料の下ごしらえ、味付け、調理をしている。ベランダで食事を楽しむこともある。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりのその日の体調に合わせてメニューを変更したり、食事形態の工夫をしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、利用者一人ひとりの状況に合わせて介助を実施している。利用者の中には、口腔衛生士に来てもらい、指導を行ってもらっている人もいる。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を誘導している。	日中は排泄チェック表を利用して、トイレ誘導をしている。入所後にトイレで排泄できるようになった利用者があるほか、トイレ誘導することで失禁が少なくなった利用者もいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、適度な運動や水分摂取を心がけて、利用者の便秘予防に取り組んでいる。下剤はすぐには使用せず、牛乳などを多く摂取してもらっている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望に沿った時間に入浴ができるよう支援している。	本人の希望で、週2回の入浴の利用者が多い。一人ずつ声掛けしながら介助して、ゆっくり入浴を楽しんでいる。柚子の季節には、家族の差し入れで柚子風呂を楽しんでいる。温泉気分や、香りを楽しめる入浴も検討している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者には日中は出来るだけ活動してもらい、生活リズムを整えるようにしている。体調や希望を考慮して、休息がとれるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書をファイルし、職員が手元で確認できるようにしている。薬の変更時等には、申し送りを行って情報共有している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や好みを合わせて、日々の生活の中で料理、裁縫などの役割分担や楽しみが見出せる場面作りを行っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、ドライブなどの希望に合わせてながら外出しているほか、地域の人や知人がドライブや散歩に連れ出してくれるが、昨年はコロナ禍でできなかった。今年は、月2回のドライブに出かけている。	紫陽花を見にドライブに出かけたり、コロナ感染が比較的落ち着いていた時期には、近所のスーパーに歩いて買い物に出かけたりと、コロナ禍にあっても、可能な外出支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金が必要な時には、施設立替金で対応している。本人、家族の希望により現金を所持している利用者もいる。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望する時には、随時家族と連絡が取れるようにしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節が感じられるような花や飾りを置き、畳も設置しており、利用者が寛ぎを得られるスペースとしている。	食堂にはユニット名に合わせた花や、皆で作った折り紙細工を壁に飾っている。玄関の花瓶には季節の花を活けている。居間には長いソファを置き、畳のコーナーが設置されている。ベランダでは、季節の花をプランターに植えて楽しんでいる。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットに縛られることなく、気の合う利用者がいれば、他ユニットに出掛けて会話が楽しめるよう、支援している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所に際しては、使い慣れた家具や好みの物等を持参してもらえよう家族と相談しながら、居心地良く過ごせる居室となるよう配慮している。	自宅から持参した仏壇やテーブルを置き、家族の写真を壁に飾る等、自分らしさが出る居室となっている。衣類ボックスは収納コーナーに入れ、すっきりとしており、全室に空気清浄機が設置された、安全で清潔な居室となっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に混乱や不安感を抱かせないよう、状況に応じて居室やトイレなどに目印をつけるなど、出来る限り自立した生活が送れるよう支援している。		

ユニット名:

あさがお

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: もくれん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、理念に基づいたサービスの提供が行えるようにしている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は、併設のデイサービスセンターやケアハウスの各種行事に参加して交流し、毎月地域のボランティアの来訪も得て交流を図ってきたが、コロナ禍により、他事業所との交流、ボランティアの受け入れも中止している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、地域での地域清掃や料理教室などに利用者と一緒に参加していたが、コロナ禍のため中止している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、サービスの実施状況等の報告や話し合い、参加者からの意見、要望などを受けサービス向上に努めていたが、コロナ禍のため中止している。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターには利用者の状況や困難事例など報告し、相談する関係ができています。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については事業所内研修の場を設け、拘束をしないケアに努めている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、身体拘束をしないケアの実践に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待防止について内外研修を受講し、虐待防止を理解している。新しく入職してきた職員にも、適宜、研修を行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族には、入所時に権利擁護関係の制度説明をしている。現在、1名の利用者が成年後見制度を活用している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談も含めて、利用者、家族から希望や疑問点を聞いて説明し、理解、納得を得たうえで契約している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中や、家族との面会時等の機会を捉えて意見、要望を聞き、また、意見、要望が出しやすい関係作りを心がけている。年1回の家族会は、コロナ禍のため昨年から開催できていない。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やスタッフ会の際に、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。また、必要があれば随時職員との話し合いの場を設けており、申し送りに詳細を記載し、その他の職員にも情報が伝わるようにしている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの努力や勤務状況について把握し、評価を行って、職員に満足してもらえるような就業環境整備に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は定期的に行われている。外部研修も含めて職員参加の機会を設けたり、スタッフ会で研修報告を行っている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に事業所が集まる研修会に参加し、スタッフ会で研修報告を行っている。月2回、ユニット会議を開催している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に本人の生活状況や心身の状態などを聞き、本人の思いを受け止め、その思いに沿ってケアしていけるよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階で、それまでの経過や家族の希望、不安、要望などを聞く機会を設け、家族の思いを受け止め、その思いに沿っていけるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている適切なサービスを見極め、他のサービス利用も含めて説明し、対応している。必要に応じて、特別養護老人ホームや介護療養型医療施設などを紹介している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、裁縫、園芸など、本人の得意分野で力を発揮してもらえるよう声掛けを行い、環境整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会時には、利用者の近況報告に加えて家族自身とのコミュニケーションに努め、共に利用者を支えていけるような関係作りを目指している。事業所の行事活動にも参画してもらい、手伝ってもらっている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人への電話の仲介や、住み慣れた自宅周辺に出掛けたりしている。		
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、支え合って生活できるよう利用者一人ひとりの個性を理解し、関係性を取り持つ支援をしている。座席の変更も適宜行っている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も声掛けをし、家族からの相談があればすぐに対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や得意分野から話題提供し、本人の意向を把握するように努めている。会話での把握が困難な場合には、日々の行動や表情から思いを汲み取ったり、家族から情報を得るようにしている。		
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴やサービス利用の経過等について、家族やケアマネージャー等からの情報把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の生活状況や、心身の状況を職員全員が総合的に把握し、本人の持てる力の発見に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、職員の気付きなどの意見交換しながら、話し合いで介護計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、適宜見直しを行っている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて、日々の様子やケアの実践状況と結果、気づきを記録している。記録を基に見直しを行っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。また家族の同意を得て、在宅支援診療所を活用している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	香南市ボランティア制度を活用し、月1回ボランティアに来所してもらっている。また、毎月地域のボランティア施設へ訪問し、交流している。コロナ禍のため、現在は休止している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前までのかかりつけ医や、希望する医療機関への受診に対して情報提供などの支援を行っている。また、協力医療機関の月2回往診や、随時往診もある。。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週1回勤務しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない場合は、職員が電話連絡などで確実な連携を行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には情報提供を行い、面会時等には病院関係者との情報交換に努め、早期退院に向けた環境を整えている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の気持ちを大切にしながら、苦痛がなく穏やかに終末期を過ごしていけるよう、本人、家族、医師、看護師、職員などが方針を共有し、早期から話し合いを行いながら支援している。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備して取り組んでいるが、今後も実技を繰り返し行い、実践力を身に付けていく必要がある。6月の内部研修では、AED使用方法、心臓マッサージの救命救急法研修会を行った。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災教育訓練及び基礎訓練を年2回、地震、津波避難訓練を年3回、風水害訓練を年1回、併設のデイサービスセンター、ケアハウスと共同で行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿って、利用者の尊厳を守れるような言葉掛けや、対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを表したり、自己決定出来るような言葉掛けや、場面作りに努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを理解し、本人の希望も聞きながら、個別の支援ができるよう努めている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみができるよう職員が見守り、声掛けを行っている。支援が必要な利用者には、一緒に身だしなみを考えている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの得意な事を活かしながら、野菜のカット、皮むきや味付けを職員と一緒にやっている。食後には皿洗いなども行っている。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりのその日の体調に合わせてメニューを変更したり、食事形態の工夫をしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、利用者一人ひとりの状況に合わせて介助を実施している。利用者の中には、口腔衛生士に来てもらい、指導を行ってもらっている人もいる。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を誘導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、適度な運動や水分摂取を心がけて、利用者の便秘予防に取り組んでいる。下剤はすぐには使用せず、牛乳などを多く摂取してもらっている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望に沿った時間に入浴ができるよう支援している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者には日中は出来るだけ活動してもらい、生活リズムを整えるようにしている。体調や希望を考慮して、休息がとれるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書をファイルし、職員が手元で確認できるようにしている。薬の変更時等には、申し送りを行って情報共有している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や好みを合わせて、日々の生活の中で料理、裁縫などの役割分担や楽しみが見出せる場面作りを行っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブなどの希望に合わせてながら外出しているほか、地域の人や知人がドライブや散歩に連れ出してくれているが、昨年はコロナ禍でできなかった。今年は、月2回のドライブに出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金が必要な時には、施設立替金で対応している。本人、家族の希望により現金を所持している利用者もいる。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望する時には、随時家族と連絡が取れるようにしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節が感じられるような花や飾りを置き、畳も設置しており、利用者が寛ぎを得られるスペースとしている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットに縛られることなく、気の合う利用者がいれば、他ユニットに出掛けて会話が楽しめるよう、支援している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所に際しては、使い慣れた家具や好みの物等を持参してもらえよう家族と相談しながら、居心地良く過ごせる居室となるよう配慮している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に混乱や不安感を抱かせないよう、状況に応じて居室やトイレなどに目印をつけるなど、出来る限り自立した生活が送れるよう支援している。		

ユニット名:

もくれん

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない